

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2021年 1月 6日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 140-0001

所在地 東京都品川区北品川4-7-35御殿山トラストタワー9階

評価機関名 株式会社 医療福祉経営研究所

認証評価機関番号

機構 07 - 180

電話番号 03-5422-7938

代表者氏名 薄井 照人



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	新井 結花	福祉	H0802032
	②	佐野 真奈美	福祉	H1202015
	③	水田 智博	経営	H1001029
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	救護施設			
評価対象事業所名称	優仁ホーム			
事業所連絡先	〒	192-0152		
	所在地	東京都八王子市美山町1463番地		
	TEL	042-651-3438		
事業所代表者氏名	富澤 達也			
契約日	2020年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020年 8月 11日			
利用者調査結果報告日	2020年 10月 15日			
自己評価の調査票配付日	2020年 7月 30日			
自己評価結果報告日	2020年 10月 15日			
訪問調査日	2020年 10月 22日			
評価合議日	2020年 10月 22日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・聞き取り調査当日の昼食は、試食を兼ねて利用者と同じ食事をとらせていただきました。 ・施設内の見学の際、生活や活動の様子を拝見する中で、利用者の意向を可能な範囲で把握しました。 ・職員の自己評価では、オリジナルの回答シートを用意し、階層別の評点分布だけでなく、より問題点を特定しやすいように集計結果をまとめて、事業所に報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 12月 29日

事業者代表者氏名

救護施設 優仁ホーム  
施設長 富澤 達也



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の「自立」を後押しすべく、利用者の力を信じて、「一人ひとりが主人公」という理念のもと支援が行われています
	内容	利用者が作業しやすい環境となるよう工夫し、紙工班、技芸班、外作業があり、作業内容は個別支援計画作成の際、利用者の希望を聞き取り適正や状態を考慮した上で決定しています。また、作業の種類も新たに増え、多くの利用者にとって作業は生活の一部となっており、本人の「生きがい」や「やりがい」につながっています。その他、余暇活動についても選択肢があり、利用者の「自立」を後押しすべく、失敗を恐れるのではなく職員が支援することで実現可能となるよう、利用者の力を信じて、「一人ひとりが主人公」という理念のもと支援が行われています。
2	タイトル	職員がより良い支援を行うための声を上げやすく、協力的な組織の一体感があり、施設の役割を果たすべく取り組みにつながっています
	内容	1階にあった地域部署を地域移行を希望する利用者が多い3階のスタッフルームに移動させ、個別支援計画や地域移行支援を一体的に行うことで、より地域移行をスムーズに行うための体制強化を図りました。お互いの部署の業務内容を見聞きする良い機会にもなり、職員から「この方がやりやすい」という声が上がリ、地域移行支援に関わる組織的な対応力強化となりました。職員自己評価でも職員同士の連携や関係性が良く、課題への取り組みの早さといった意見が挙がり、通過施設という施設の役割を達成すべく組織の一体感があります。
3	タイトル	各専門職によるアセスメントおよびケース記録の記載により、多角的な視点を持って個別支援計画の作成を行うことができます
	内容	個別支援計画の充実を重点目標に掲げ、昨年度末から介護ソフトの導入をすすめ、今年度実用化に至っています。アセスメントの強化を図るべく、各専門職がそれぞれの分野をアセスメントして記載していくことで、多角的な視点から個別支援計画の作成を行うことができるしくみとなっています。また、ケース記録についても、専門職がそれぞれ記載しており、理学療法士や臨床心理士も同様に行っています。IT化を図ったことで、職員から「記録がしやすくなった」との意見があがり、ケース記録の量も増加するなど、さらなる情報の集約と活用が期待できます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	5か年中長期計画や施設重点目標とのつながりを意識し、備考欄の効果的な活用が期待されます
	内容	PDCAサイクルに沿って、単年度事業計画書の進捗管理を行っています。進捗管理表を用いて、4半期ごとに達成度を○、△、×で評価していますが、備考欄の補足コメントが達成・未達に関わらず状況が記載されているだけで、達成状況を踏まえた対応策や改善に向けた内容にはなっていません。5か年中長期計画のロードマップやその年の施設重点目標とのつながりも意識しながら目標達成に向けた具体的な道筋をつけられるよう、備考欄の記述内容や視点を見直し、効果的に活用することが期待されます。
2	タイトル	内部に向けた情報発信は、全体への周知が必要か、個別対応で行うべきか、個人情報保護の観点から今一度検討することが期待されます
	内容	利用者の個人情報は個人情報保護規程に基づき取り扱い、入所時に利用者へ説明・同意を得ています。広報誌等への氏名の公表や写真等の掲載については、都度利用者へ確認を取り承諾を得た上で使用しています。しかし、利用者向けに発行している「お知らせゆうじん」における誕生日の利用者掲載や、通院予定の貼り出しなど、利用者全体に周知が必要か、個別対応で行うべきか等、個人情報保護の観点から検討することも必要と推察されます。見学者等外部の出入りもあることから、施設内での取扱いや周知方法について今一度検討することが期待されます。
3	タイトル	「生き生きと活気のある施設」の実現に向けて、職員一人ひとりの目標管理における現在の仕組みを深化していくことが期待されます
	内容	職員に対する人事考課と目標管理は「人材育成シート」を用いて人材育成に取り組んでいます。人事考課の評価要素と着眼点に基づいて、職員自身がどのようなことに取り組んだのか具体的な行動内容と段階を評価します。現在、職員育成を課題と捉えており、職員育成の一環として個別担当制の導入や業務改善に取り組んできました。目標としている「生き生きと活気のある施設」の実現に向けて、職員一人ひとりの目標管理における目標設定の是非なども含め、現在の仕組みを深化していくことが期待されます。

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町1丁目5番地4-712

評価機関名 株式会社 ケアシステムズ

認証評価機関番号

機構 06 - 167

電話番号 03-3511-5035

代表者氏名 和田 俊一



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	和田 俊一	経営	H0601057
	②	伊藤 孝子	福祉	H1401060
	③	平田 容子	福祉	H1301024
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	指定介護老人福祉施設【特別養護老人ホーム】			
評価対象事業所名称	特別養護老人ホームあかね苑		指定番号	1370402974
事業所連絡先	〒	162-0853		
	所在地	東京都新宿区北山伏町2番12号		
	TEL	03-3266-1811		
事業所代表者氏名	施設長 大住 優			
契約日	2020年 9月 14日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020年 10月 24日			
利用者調査結果報告日	2020年 11月 24日			
自己評価の調査票配付日	2020年 9月 21日			
自己評価結果報告日	2020年 11月 24日			
訪問調査日	2020年 11月 27日			
評価合議日	2020年 11月 27日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、施設と協議のうえ、アンケート内容の理解が難しい利用者や会話が困難な利用者を除いた全利用者を対象とし、居室や施設内の話を聞きやすい場所で、評価者が個別に聞き取りをした。また、利用者の家族に対してもアンケートを実施し評価の参考とした。 事業評価については、職員からも各標準項目にチェックを入れた分析シートを回収し、集計結果報告に反映した。第三者性確保については、当評価機関と事業者の間には特別な関係は存在せず、中立公正な立場で調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2021年 2月 8日

事業者代表者氏名 施設長 大住 優



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の趣味や暮らし方を大切にしている
	内容	例年、お花見、納涼祭、敬老会などの行事を開催して四季の移り変わりを楽しめるように働きかけているが、新型コロナウイルスによる感染対策によりボランティアの協力によるクラブ活動等もすべて中止となっている。そうした中で、居酒屋、ミニホーム喫茶の開催や調理レクによるプリン・パパロアおやつ作りなどの活動が、コロナ禍においても利用者が生活を楽しむことができる活動として感染防止策を実施しながら多職種との連携で実施している。また、トラック移動販売も利用者に好評を得ている。家族アンケートからも安心と感謝の意見が多くみられている。
2	タイトル	利用者からの希望を反映させた献立に取り組んでいる
	内容	利用者の希望を聞き提供する手作りおやつが楽しみとなっている。多職種連携のもと自助具を利用して自力摂取を促すなど、状況に応じた介助を心がけて実施している。また、食事時間や介助など食事環境の整備に努め、多職種が連携して、自立支援と安全の両面に配慮した食事提供や介助に努めている。
3	タイトル	法人として中期ビジョンを策定して、安定した事業運営を目指している
	内容	人材の確保・育成・定着をし推進させることを目的とした「中期ビジョン」を策定しており、具体的な施策として「職員表彰制度の創設」「子育てしやすい労働条件の整備」「有給休暇取得率の向上」などを掲げている。平成28年より中期計画検討会議を設立させて定期的の検討を重ねている。尚、外部の専門家の意見も必要とされることや法人内の事業所毎に労働環境も異なることから、項目によっては試験的に実施して課題の抽出に取り組んでる。様々な検証のもとに、適切な計画の立ち上げを目指している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ケース記録の内容について検討することが望まれる
	内容	利用者の日々の様子は、班別に分かれているカードックスのケース記録へ記述されている。ケース記録は手書きで、特記事項があった場合のみ記録されている。記録の内容はケアプランとは乖離しており、その日どのように過ごしたかの様子の確認になっていない。ケアプランの原案を居室担当者が作成しているにもかかわらず、ケアプラン作成の意義が職員に伝わっているかどうかは疑問である。ケアプランは業務指示書であることを再確認し、ケアプランが形骸化しないように日々の記録の仕方を含めて検討することが望まれる。
2	タイトル	更衣支援の内容を詳しくアセスメントすることが望まれる
	内容	起床就寝時の更衣支援については、数名の利用者については実施しており、利用者の意向に沿って対応することになっている。また、拘縮などがある場合には、入浴時や全身清拭後に行うことにもしている。ただし、日常生活にメリハリをつけることや、より自立した日常生活を過ごすためには「起床就寝時の更衣支援」の位置づけを更に明確にすることが必要とされる。また、利用者一人ひとりの更衣の基準について、アセスメントへの落とし込みが望まれる。
3	タイトル	事業報告書と計画書の記述方法の工夫が望まれる
	内容	単年度の事業報告書は、過去3年間の事業推移をはじめ個別事業ごとの総括を行い、詳しい状況が記載されている。事業計画書についても、職員参加のもと部署ごとに個別計画を策定し、施設全体としてまとめる流れが定着している。ただし、報告書の「事業計画の重点目標の達成度」の記載からは、達成状況や当初計画との差異は確認できるが、未達成の理由が明記されていない。加えて計画書の個別事業計画では、継続事業か新規事業か、さらに前年度未達成事業の改善への取り組みなのか、などを分かりやすくなるような工夫が望まれる。